


事務事業名	交通安全対策事業						所属部	市民環境部	所属課	市民活動支援課
施策名	0	9	命を守り安心して暮らせるしくみづくり				所属担当	市民生活担当	課長名	中村 啓子
法令根拠	笛吹市交通安全条例						個別計画	笛吹市交通安全実施計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	2	1	11	30	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									笛吹交通安全協会と協力して子どもと高齢者の参加型交通安全教室を開催しました。	
◇交通事故発生件数は全国的にも山梨県内においても減少傾向にあるが、高齢者や自転車に関わる事故については増加してきている。幼児や高齢者などの交通弱者を交通事故から守るために、世代別に交通安全啓発や交通安全教室を開催する。 ◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・報酬 208 賃金 6,920 消耗品費 638 旅費 19 負担金10										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

← 実施計画期間 →

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
◇交通安全教室の開催 ◇交通安全運動中の啓発活動 ◇交通安全街頭啓発	◇交通安全教室の開催 ◇交通安全運動中の啓発活動 ◇交通安全街頭啓発	◇交通安全教室の開催 ◇交通安全運動中の啓発活動 ◇交通安全街頭啓発	◇交通安全教室の開催 ◇交通安全運動中の啓発活動 ◇交通安全街頭啓発

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

・笛吹市民 (特に幼児・児童と高齢者)

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 交通安全教室開催回数 (参加人数)	回
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 笛吹市民	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 全市民に対する交通安全教室参加者の割合	%
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 市内交通事故発生件数	件

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

・日常生活の中での交通事故の危険性や交通規則を理解し、市民が交通事故に遭遇することがないようにする。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

・市内交通発生事故件数の減少

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	8,647	8,481	8,060	9,851	9,851	9,851
	事業費計(A)	千円	8,647	8,481	8,060	9,851	9,851	9,851	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費計(B)	千円	0	1,372	1,372	1,372	1,372	1,372	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	8,647	9,853	9,432	11,223	11,223	11,223	
活動指標	ア	回	419	428	430	430	430	430	
対象指標	イ	人	71,494	71,494	70,662	70,662	70,662	70,662	
成果指標	ウ	%	29.3	29.3	30.2	29.6	29.6	29.6	
上位成果指標	エ	件	430	390	368	368	368	368	


事務事業名	交通安全対策事業
-------	----------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 ・子どもと高齢者の交通安全意識の高揚を促進し、一般の運転者などに子どもと高齢者に対する保護意識を醸成し、交通弱者の交通事故防止を図るものであり、妥当。
	有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである
効率性評価		③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)
		④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) <p>◇笛吹市内における交通事故発生件数は、減少傾向にある。平成27年8月には交通死亡事故連続ゼロ日数500日が達成されました。次年度以降も交通安全教室を積極的に開催していきたい。</p> <p>◇交通安全教室を開催する専門交通指導員は大半が臨時職員であるため、地方公務員法などにより継続的な雇用が難しい。経験が重要な職種であるだけに28年度から嘱託職員として採用となる。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み <p>◇業務に精通した専門交通指導員の確保が課題であるため、人事給与担当と協議した結果28年度から嘱託職員としての採用となる。</p>																						

事務事業名	交通安全施設整備事業						所属部	市民環境部	所属課	市民活動支援課
施策名	0 9 命を守り安心して暮らせるしくみづくり						所属担当	市民生活担当	課長名	中村 啓子
法令根拠	笛吹市交通安全条例						個別計画	笛吹市交通安全実施計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	2	1	11	80	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳								小学校の通学路に、路面表示による注意喚起を行いました。		
◇歩行者や車輛の安全な通行を確保するため、交通安全施設(カーブミラー等)の設置・管理を行う。										
◇通学路合同点検の結果に基づいて、通学路の安全対策を行う。										
◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) ・需用費2,051 工事請負費12,938										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
◇カーブミラー新設28基、移設等23基、修繕27箇所。 ◇通学路安全対策は、3校の通学路でグリーンベルト設置、1校の通学路で区画線を設置した。	・交通安全施設(カーブミラー等)の設置及び維持管理 ・通学路における交通安全施設の整備	・交通安全施設(カーブミラー等)の設置及び維持管理 ・通学路における交通安全施設の整備	・交通安全施設(カーブミラー等)の設置及び維持管理 ・通学路における交通安全施設の整備

② 対象(誰、何を対象にしているのか)

- ・笛吹市民

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
ア 当該年度のカーブミラー工事・修繕件数	件
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
イ 笛吹市民	人
⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 地区要望に対する対応割合	%
⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 市内交通事故発生件数	件

③ 意図(対象をどのような状態にしたいのか)

- ・歩行者や車輛の安全な通行を確保する。

④ 結果(意図した結果、さらに何に反映させるか)

- ・市内交通事故発生件数の減少

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円	3,042	5,247	4,730	4,730	4,950	社会資本整備 総合交付金 (通学路整備)
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	8,274	13,098	10,330	13,777	10,170	
	事業費計(A)	千円	11,316	18,345	15,060	18,507	15,120	15,120	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費計(B)	千円	1,327	1,372	1,372	1,372	1,372	1,372	
トータルコスト(A)+(B)		千円	12,643	19,717	16,432	19,879	16,492	16,492	
活動指標	ア	件	78	87	78	100	85	85	
対象指標	イ	人	71,494	71,494	70,662	70,662	70,662	70,662	
成果指標	ウ	%	100	100	100	100	100	100	
上位成果指標	エ	件	430	428	390	390	390	390	


事務事業名	交通安全施設整備事業
-------	------------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 市民の安心・安全な交通環境を確保するためには、交通安全施設の改良・整備が不可欠であり、対象・意図ともに実態とあっている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 行政区、学校、関係部署と現地で協議し要望に応えている。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 交通安全施設が整備されないことにより、交通事故の発生件数が増加が予想される。市民生活の安全安心が脅かされることが見込まれるために廃止、休止、事業の削減は影響を及ぼす。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 行政区や学校からの要望に対応するためには、事業費・人件費とも削減する余地はない。

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) <p>◇27年度も各行政区や学校からの要望に基づいてカーブミラーの設置、通学路の安全対策工事を実施してきたが、現在の人員体制ではマンパワーの不足が否めず、十分に対応できなかった部分もある。次年度以降、業務改善を図っていく必要がある。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み <p>◇交通安全施設工事の発注にあたり、計画・設計を迅速に行うため、道路工事施工部局と協議しながら進めていくことが必要。</p> <p>◇業務を執行するうえで、人員体制を改善することが必要。</p>																						

事務事業名	ごみ処理事業						所属部	市民環境部	所属課	環境推進課
施策名	1	1	美しい環境を大切にする社会づくり				所属担当	ごみ減量担当	課長名	小宮山 昌彦
法令根拠	廃棄物処理法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	4	3	2	20	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
概要 ・ごみ搬出量の削減を目指し、ごみ処理費の軽減をはかる。 ・ごみの処理体系、処分先を精査し、効率のよく、環境にやさしい事業をめざす。 事務費の内訳 ・業務委託費 326,973千円 ・負担金 255千円 ・旅費 59千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	← 実施計画期間 →			
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・処理事業者との協議 ・効率的な処理方法の検討と環境にやさしい処分方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理事業者との協議 ・効率的な処理方法の検討と環境にやさしい処分方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理事業者との協議 ・効率的な処理方法の検討と環境にやさしい処分方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理事業者との協議 ・効率的な処理方法の検討と環境にやさしい処分方法の検討 	

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)	指標名(数字は記入しない)		単位
<ul style="list-style-type: none"> ・市民 ・家庭から排出される一般廃棄物 ・処理事業者 	⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)		
	ア	ごみの分別説明会開催回数	回
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		
<ul style="list-style-type: none"> ・分別 ・排出量が減少する ・効率的な処理方法 	イ	生活系可燃ごみ総量	t
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)	⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量 ・効率的な処理と環境にやさしい処分方法の確立 	ウ	生活系可燃ごみの減量率 基準年: H16年度の可燃ごみ総量 15,724 t	%
	エ	⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標) 生活系可燃ごみの減量率 基準年: H16年度の可燃ごみ総量 15,724 t	%

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		財源内訳							
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
	一般財源	千円	367,285	382,500	364,860	327,287	250,000	250,000	
	事業費計(A)	千円	367,285	382,500	364,860	327,287	250,000	250,000	
人件費	正規職員延従事人数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
	人件費計(B)	千円	19,905	19,905	19,905	19,905	19,905	19,905	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	387,190	402,405	384,765	347,192	269,905	269,905	
	活動指標	ア 回	29	19	30	30	30	30	
	対象指標	イ t	11,045	11,028	11,233	11,007	9,355	9,135	
	成果指標	ウ %	28	29	30	30	31	32	
	上位成果指標	エ %	28	29	30	30	31	32	

事務事業名	ごみ処理事業
-------	--------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 一般家庭から排出される一般廃棄物であるため、実態と合っている。 循環型社会の形成、環境保全から意図は実態と合っている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 減量施策に基本的な理解はされているが、分別排出等の徹底が不十分でまだ実績があるべき水準に達していない。更に住民への説明や周知が必要である。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 循環型社会形成や環境保全に大きな影響があることから、行政責任、法的義務に抵触する。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 事業費の主はごみ処理費と処分費に当てられている。減量意識の向上や処理方法や体系等の見直しにより経費削減を目指す。

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) ◇減量施策について基本的な理解はされているが、分別排出についてはまだ不十分であり改善余地がある。広報紙・HP活用の他、市民説明会の開催・環境教育の実施等をこまめに行う必要がある。 ◇有料指定ごみ袋の導入により、ごみ減量化を計る。 ◇境川新中間処理施設建設にあわせた処理体系の見直しが必要。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み ◇笛吹市の処理体系の見直しと市民サービスの検討、処理費の削減と環境への影響を見直す。																						

事務事業名	ごみ収集事業						所属部	市民環境部	所属課	環境推進課
施策名	1	1	美しい環境を大切にする社会づくり				所属担当	ごみ減量担当	課長名	小宮山 昌彦
法令根拠	廃棄物処理法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	4	3	2	10	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 円滑な収集業務を委託事業者により行う 収集運搬業務の市内統一を行うことで、業務の合理化及び効率化を図り、ごみの減量と経費削減を行う。 <p>事務費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務委託費 209,484千円 										

1 現状把握の部 (PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

← 実施計画期間 →

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 収集業者との連携 円滑な収集業務を行うため、収集業者への指導及び協議 	<ul style="list-style-type: none"> 収集業者との連携 円滑な収集業務を行うため、収集業者への指導及び協議 	<ul style="list-style-type: none"> 収集業者との連携 円滑な収集業務を行うため、収集業者への指導及び協議 	<ul style="list-style-type: none"> 収集業者との連携 円滑な収集業務を行うため、収集業者への指導及び協議

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

- 市民
- 市内から発生した生活系一般廃棄物 (可燃ごみについては、春日居町を除く)

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 指導回数	回
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 人口	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 年間の生活系ごみ総量	t
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 年間の生活系ごみ総量	t

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

- 円滑な収集を行う

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

収集体制が合理化され、効率向上と経費節減が進む。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	317	163	208	5,626	300	300
		一般財源	千円	203,022	210,946	209,276	233,150	233,150	233,150
	事業費計(A)	千円	203,339	211,109	209,484	238,776	233,450	233,450	
人件費	正規職員延従事人数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
	人件費計(B)	千円	79,905	19,905	19,905	19,905	19,905	19,905	
トータルコスト(A)+(B)		千円	283,244	231,014	229,389	258,681	253,355	253,355	
活動指標	ア	回	12	12	12	12	12	12	
対象指標	イ	人	71,373	70,993	70,662	70,662	70,662	70,662	
成果指標	ウ	t	15,767	16,174	16,000	15,500	14,500	14,500	
上位成果指標	エ	t	15,767	16,174	16,000	15,500	14,500	14,500	


事務事業名	ごみ収集事業
-------	--------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 一般家庭からのごみの排出の収集であるため、対象は実態と合っている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 ごみ処理施設が甲府⇒境川となるので、収集ルート等見直しの余地がある。境川新処理施設完成時に変更を行う。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 循環型社会形成や環境保全に大きな影響があることから、行政責任、法的義務に抵触する。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input checked="" type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 事業費：排出者の減量意識の向上と収集ルートの適正化により、コストの軽減が図れる。

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) ◇排出者の減量意識の向上及び理解協力によりコスト削減が図れる。また、収集ルートの見直しによるコスト軽減も必要となる。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み ◇生活系廃棄物減量に向けた市民への周知及び利便性を考えた排出日・排出回数等について収集業者との調整確認。																						

事務事業名	資源物回収事業						所属部	市民環境部	所属課	環境推進課
施策名	1	1	美しい環境を大切にする社会づくり				所属担当	ごみ減量担当	課長名	小宮山 昌彦
法令根拠	再生資源利用促進法、容器包装リサイクル法						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	4	3	2	30	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活系一般廃棄物で排出されたもので、指定品目である資源物の排出量に応じて奨励金を交付する。 再生資源利用促進法及び容器包装リサイクル法に基づく資源物の分別排出を行う。 <p>事務費の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> 報奨金 30,500千円 委託料 4,995千円 										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 奨励金の交付 業者委託による収集運搬及び処理 	<ul style="list-style-type: none"> 奨励金の交付 業者委託による収集運搬及び処理 	<ul style="list-style-type: none"> 奨励金の交付 業者委託による収集運搬及び処理 	<ul style="list-style-type: none"> 奨励金の交付 業者委託による収集運搬及び処理

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

- 市民 (地区)
- 排出される資源物

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 奨励金交付額	千円
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 地区数	区
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 資源物の排出量	t
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 生活系可燃ごみの減量率	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

資源物の分別排出と再資源化を促進する。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

資源の再利用と廃棄物の減量が進む。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	18,861	14,880	18,380	16,350	16,350	16,350
		一般財源	千円	14,887	20,283	17,315	19,345	19,345	19,345
	事業費計 (A)	千円	33,748	35,163	35,695	35,695	35,695	35,695	
人件費	正規職員延従事人数	人	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	3.00	
	人件費計 (B)	千円	20,274	19,905	19,905	19,905	19,905	19,905	
トータルコスト(A)+(B)		千円	54,022	55,068	55,600	55,600	55,600	55,600	
活動指標	ア	千円	18,319	20,213	18,000	17,000	17,000	17,000	
対象指標	イ	区	129	129	129	129	129	129	
成果指標	ウ	t	2,528	2,931	2,510	2,500	2,500	2,500	
上位成果指標	エ	%	28	28	29	30	31	32	


事務事業名	資源物回収事業
-------	---------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？	⇒【理由】 循環型社会の構築を推進するため、対象は実態と合っている。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	
有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？	⇒【理由】 リサイクルの推進意識は高まっているが、継続的な広報活動は必要である。
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	
効率性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？	⇒【理由】 事業の廃止は、資源物回収量が減少し、ごみ排出量が増大する。容器包装リサイクル法に抵触する。
	<input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	
効率性評価	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？	⇒【理由】 リサイクル事業が将来的に法律により義務化されれば、奨励金制度を廃止しても目的は達成できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>◇廃棄物減量に向けて、再資源化の重要性を高めるためリサイクルの意識向上を図る説明会等の開催が更に必要となる。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>X</td> <td>X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			X																		
	低下		X	X																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						
<p>◇資源物回収量が増える毎に奨励金の増に繋がるが、財源である資源物販売代金が近年下落傾向にあるため、資源処理保管コストの見直しと販売ルートの開拓等も必要となる。</p>																						

事務事業名	動物愛護管理対策事業						所属部	市民環境部	所属課	環境推進課
施策名	1	1	美しい環境を大切にする社会づくり				所属担当	環境担当	課長名	小宮山 昌彦
法令根拠	犬取締条例、飼い犬及び飼い猫の不妊・去勢手術補助金交付要綱						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	4	4	2	20	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
野良犬・野良猫の増加抑制と近隣へのペット危害や迷惑を未然に防止するための方策を推進する。その一助として、飼い犬及び飼い猫の不妊・去勢手術補助金の交付を行う。										
【補助金額】手術費用の2分の1以内の額とする(次の金額が上限)										
犬・メス 10,000円 (事業費)600千円										
犬・オス 5,000円 300千円										
猫・メス 7,000円 1,890千円										
猫・オス 4,000円 600千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
野犬・野良猫の保護 犬・猫の適正飼育の呼びかけ 飼い犬及び飼い猫の不妊・去勢手術費用助成	野犬・野良猫の保護 犬・猫の適正飼育の呼びかけ 飼い犬及び飼い猫の不妊・去勢手術費用助成	野犬・野良猫の保護 犬・猫の適正飼育の呼びかけ 飼い犬及び飼い猫の不妊・去勢手術費用助成	野犬・野良猫の保護 犬・猫の適正飼育の呼びかけ 飼い犬及び飼い猫の不妊・去勢手術費用助成

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

犬・猫を市内において飼育している市民

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 補助金交付申請件数	件
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 人口	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 補助金助成件数	件
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 犬・猫による苦情件数	件

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

犬・猫の適正飼育及び適正繁殖

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

捨て犬、捨て猫が減少され、近隣へのペット危害や迷惑を防ぐことが出来る。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		財源内訳	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	2,510	2,343	2,359	1,608	1,608	1,608
		一般財源	千円	1,188	1,249	1,339	2,250	2,250	2,250
	事業費計(A)	千円	3,698	3,592	3,698	3,858	3,858	3,858	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.42	0.42	0.42	0.42	0.42	0.42	
	人件費計(B)	千円	2,838	2,787	2,787	2,787	2,787	2,787	
トータルコスト(A)+(B)		千円	6,536	6,379	6,485	6,645	6,645	6,645	
活動指標	ア	件	547	570	633	640	640	640	
対象指標	イ	人	71,373	70,993	70,662	70,662	70,662	70,662	
成果指標	ウ	件	452	512	500	520	520	520	
上位成果指標	エ	件	51	44	61	50	50	50	

事務事業名	動物愛護管理対策事業
-------	------------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？	⇒【理由】 動物愛護及び衛生対策面から対象・意図ともに実態と合っている。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	
有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？	⇒【理由】 補助金交付件数は昨年度実績より増加している。
	<input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	
効率性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？	⇒【理由】 適正繁殖及び適正飼育が出来なくなり、不当に捨てられる犬・猫が増加し、噛傷事故や糞尿被害が発生し快適な住環境の維持が出来なくなる。
	<input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	
効率性評価	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？	⇒【理由】 最大限の事務効率化を図っており削減は出来ない。
	<input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
<p>◇年々犬の登録数は減少しているため、若干ではあるが犬の補助金申請は減少傾向にある、猫は登録制度がないため実数把握は出来ないが、年々補助金申請は増加している。他自治体にも同様の補助金制度があり不必要に増加する野良犬・猫対策や糞尿被害の抑制を行っている。不妊去勢補助金制度を啓発し、利用者の増加により捨て犬・捨て猫の減少と糞尿被害による苦情の減少を図る。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						
<p>◇飼い主には適正な保護・指導をしているが、飼い主のマナーが第1であることから継続的な広報紙・チラシ等の啓発活動が重要となる。</p>																						

事務事業名	寺尾地域周辺整備事業					所属部	市民環境部	所属課	環境推進課
施策名	1	1	美しい環境を大切にする社会づくり			所属担当	境川地域振興施設担当	課長名	小宮山 昌彦
法令根拠						個別計画			
予算科目	1	2.6.8.9	1.1.2.1	9.5.2.3	80.80.80.30	細々目	1.1.1.1	事業期間	期間限定複数年度(H25年度～H29年度)
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									
境川町寺尾地区に、中間ごみ処理施設及び県一般廃棄物最終処分場の建設に伴い、地元要望事業として寺尾地域周辺整備事業を行う。 平成27年度主な事業費(単位:千円) 工事請負費 47,714 委託料 7,079 用地・補償費 99,198 その他 921 H26⇒H27繰越 88,035									

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 上寺尾, 中寺尾地区 公民館用地買収 上寺尾地区 広場建設工事 中寺尾地区 公民館建設工事 	<ul style="list-style-type: none"> 上寺尾地区 公民館建設工事 上寺尾, 中寺尾地区 消防詰所建設工事 農道設計委託 	<ul style="list-style-type: none"> 上寺尾地区公園整備 農道拡幅・新設工事 市道拡幅工事 	

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

境川町寺尾地区

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 周辺整備要望事項数	数
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 寺尾地区区民数	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 事業計画進捗状況	%
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 地域の安全向上に係る満足度	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

要望事項の事業を実施し、より良い生活環境の推進に努める。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

地元地域を含め、笛吹市全体及び周辺地域の生活環境の向上を図る。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円		2,155	40,587	41,906	22,371	社会資本整備総合交付金(都市再生整備事業)
		県支出金	千円	6,830	17,396	63,847	156,661	31,750	
		地方債	千円						
		その他	千円	5,389	13,720	38,413	73,053	137,460	
		一般財源	千円	1,442	3,676	12,065	24,815	36,828	
	事業費計(A)	千円	13,661	36,947	154,912	296,435	228,409	0	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.42	2.00	2.00	2.00	2.00		
	人件費計(B)	千円	2,838	13,270	13,270	13,270	13,270	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	16,499	50,217	168,182	309,705	241,679	0	
活動指標	ア	数	5	7	12	15	20		
対象指標	イ	人	468	468	468	468	468		
成果指標	ウ	%	2	7	40	69	100		
上位成果指標	エ	%	19	未確定	未確定	未確定	30		


事務事業名	寺尾地域周辺整備事業
-------	------------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？	⇒【理由】 対象・意図ともに実態に即しており、事業を推進することにより生活環境の向上が図れるから。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	
有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？	⇒【理由】 平成25年度より事業を開始しており、計画通り進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	
効率性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？	⇒【理由】 寺尾地区を含め市の生活環境の向上が図れない。
	<input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	
効率性評価	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？	⇒【理由】 事業量に対しての人員配置は必要最小人数であり、事業費も要望に対して適切な額と思われるから。
	<input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
◇地域周辺整備事業を計画的に実施すると共に、広域で行なうごみ中間処理施設建設事業の円滑な推進も併せて図って行く。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						
◇補助事業を取り入れることが可能な事業について検討し、負担する経費の削減に努める。																						

事務事業名	地域振興施設事業						所属部	市民環境部	所属課	環境推進課
施策名	1	1	美しい環境を大切にする社会づくり				所属担当	境川地域振興施設担当	課長名	小宮山 昌彦
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H25年度～H28年度)		
	1	8	2	3	80	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
境川町寺尾地区に、中間ごみ処理施設及び県一般廃棄物最終処分場の建設に伴い、地元要望事業として地域振興施設整備を行う。										
平成27年度主な事業費(単位:千円)										
委託料 160,823										
用地・補償費 622,224										
※繰越事業費										
H26⇒H27 140,335千円										
H27⇒H28 52,351千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
用地買収 立木、建物補償 緑地、地域振興施設設計委託 温泉掘削工事 地域振興造成工事	緑地造成工事 地域振興施設建設工事		

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

境川町寺尾地区

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 地元説明会	回
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 寺尾地区区民数	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 事業計画進捗状況	%
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 事業計画進捗状況	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

要望事項の事業を実施し、より良い生活環境の推進に努める。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

新ごみ処理施設を学習の場と活用しながら、地域振興施設との相乗的効果により、生活環境の向上を図る。

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
事業費	国庫支出金	千円		14,763	136,611	170,600			社会資本整備総合交付金(都市再生整備事業)
	県支出金	千円	4,808	43,858	323,218	407,164			
	地方債	千円							
	その他	千円	4,808	43,861	323,218	407,165			
	一般財源	千円							
事業費計(A)	千円	9,616	102,482	783,047	984,929	0	0		
人件費	正規職員延従事人数	人	0.50	0.50	1.00	1.00			
	人件費計(B)	千円	3,379	3,318	6,635	6,635	0	0	
トータルコスト(A)+(B)		千円	12,995	105,800	789,682	991,564	0	0	
活動指標	ア	回	5	6	5	3			
対象指標	イ	人	468	468	468	468			
成果指標	ウ	%	5	20	40	100			
上位成果指標	エ	%	5	20	40	100			


事務事業名	地域振興施設事業
-------	----------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？	⇒【理由】 対象・意図ともに実態に即しており、事業を推進することにより生活環境の向上が図れるから。
	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	
有効性評価	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？	⇒【理由】 平成25年度より事業を開始しており、計画通り進んでいる。
	<input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	
効率性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？	⇒【理由】 寺尾地区を含め市の生活環境の向上が図れない。
	<input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	
効率性評価	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？	⇒【理由】 事業量に対しての人員配置は必要最小限であり、事業費も要望に対して適切な額である。
	<input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点)																						
◇地域振興施設整備事業を計画的に実施すると共に、広域で行なうごみ中間処理施設建設事業の円滑な推進も併せて図って行く。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み																						
◇補助事業を取り入れることが可能な事業について検討し、負担する経費の削減に努める。																						

事務事業名	花と緑のまちづくり推進事業						所属部	市民環境部	所属課	市民活動支援課
施策名	1	2	憩いと癒しの空間づくり				所属担当	市民生活担当	課長名	中村 啓子
法令根拠	笛吹市花のまちづくり花苗配布要綱						個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H16年度～)		
	1	2	1	13	20	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳								市内各地域で花のまちづくりを進める団体に、花苗を提供しました。		
◇花や緑でより良い生活環境をつくり、地域のコミュニティを発展させ、生き生きとしたまちづくりを進めていくことを目的とする。 ◇市内各所の憩いの場、公園、公共施設や道路河川沿いに花を植えてまちの環境を美しくするため、花の栽培・管理育成を行う地区、住民自治組織及び団体等に対して花苗・種子等を配布する。										
◇平成27年度の主な事業費(単位:千円) 消耗品費5,293 光熱水費30										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

← 実施計画期間 →

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
◇花苗配布団体 73団体 ◇イベント時の花苗配布 4回 ◇花のまちづくり事業の説明 8回	◇花のまちづくり団体への花苗の支給 ◇オープンガーデン事業の検討 ◇花の名所づくりの検討	◇花のまちづくり団体への花苗の支給 ◇オープンガーデン事業の検討 ◇花の名所づくりの検討	◇花のまちづくり団体への花苗の支給 ◇オープンガーデン事業の検討 ◇花の名所づくりの検討

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

- ・ 笛吹市民
- ・ 観光客

指標名(数字は記入しない) 単位

⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 花のまちづくり団体数 (参加者数)	団体
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 笛吹市民数	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 花のまちづくりへの市民の参加割合	%
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 花や緑にあふれ、身近に自然と触れ合うことができると思う市民の割合	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

- ・ 花のまちづくり団体の増加
- ・ オープンガーデンの参加者の増加
- ・ 花を目的とした観光客の増加

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

- ・ 花を育てることで市民のまちづくりへの参加意識の向上
- ・ 観光客に対するおもてなし意識の向上
- ・ 地域で花のまちづくりに参加することによるコミュニティの強化

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	3,271	5,323	13,167	11,424	11,424	11,424
	事業費計(A)	千円	3,271	5,323	13,167	11,424	11,424	11,424	
人件費	正規職員延従事人数	人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	人件費計(B)	千円	1,327	1,372	1,372	1,372	1,372	1,372	
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,598	6,695	14,539	12,796	12,796	12,796	
活動指標	ア	団体	64	73	80	80	80	80	
対象指標	イ	人	71,947	71,494	70,662	70,662	70,662	70,662	
成果指標	ウ	%	18	18	21	21	22	23	
上位成果指標	エ	%	68.3	—	—	71.0	72.0	73.0	


事務事業名	花と緑のまちづくり推進事業
-------	---------------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 市民意識調査によると笛吹市が花と緑にあふれた環境であると感じている人が多いが、その環境づくりに積極的にかかわっていくことを推進するという意味から施策体系とは整合性が取れている。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達してない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 現在の花のまちづくりへの参加者は約20%程度、花と緑にあふれた環境であると感じる人の割合は約70%程度だが、いずれももう少し向上する余地があると思われる。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 せっかく定着しつつある事業であるため、途中での休止は市民の失望につながる。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 現在は、事業の再始動、拡張段階にあるので事業費・人件費とも削減する余地はない。
効率性評価		

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) <p>◇27年度は広報活動の結果、花のまちづくりに参加する団体が増加したため、28年度以降も継続して広報活動を積極的に行っていきたい。 ◇花のまちづくり懇話会の開催によって、個人的に花づくりを進めている人たちの意見を伺うことができた。懇話会を継続的に開催することによって、花のまちづくりの中核を担う人の発掘・連携を強めていきたい。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み <p>◇花のまちづくりを推進していくには、様々な施策があると思われるので、庁内会議などで検討し、実施に向け担当者の増員を図る。</p>																						

事務事業名	特定健診等事業						所属部	市民環境部	所属課	国民健康保険課
施策名	1 3 健やかで生きいきと暮らせる環境づくり						所属担当	国保保健指導担当	課長名	霜村 和也
法令根拠	高齢者の医療の確保に関する法律						個別計画	第2期特定健康診査等実施計画		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H20年度～)		
	11	8	1	1	10	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳										
◇笛吹市国民健康保険被保険者の生活習慣病の予防、疾病の重症化防止、及び生活習慣病に起因する医療費の削減を目的とする。 ◇特定健診は、集団健診、個別医療機関健診、国保人間ドックを実施する。健診の結果から特定保健指導を実施する。 ◇平成27年度の主な事業費 (単位：千円) 委託料 38,639										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

← 実施計画期間 →

27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
◇平成26年度法定報告値 (特定健診受診率46.4%・特定保健指導終了率48.8%)	◇平成27年度法定報告値 (特定健診受診率54%・特定保健指導終了率60%)	◇平成28年度法定報告値 (特定健診受診率57%・特定保健指導終了率60%)	◇平成29年度法定報告値 (特定健診受診率60%・特定保健指導終了率60%)

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

40歳から74歳までの国民健康保険被保険者

指標名(数字は記入しない) 単位

ア	⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) 前年度法定報告値【特定健診受診率・特定保健指導終了率】	%
イ	⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) 40歳～74歳の国保被保険者数	人
ウ	⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標) 特定健診受診者	人
エ	⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標) 健康な生活を送っている者の割合 (受診者 - (服薬者 + 指導対象者)) / 受診	%

③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)

特定健診を受診し、自らの生活習慣病のリスクを知り、早期受療や生活習慣の改善等保健行動がとれる。

④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)

医療費の削減による国民健康保険財政の安定

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	14,911	12,077	11,707	13,530	13,530	13,530	特定健診等事業(国・県)国保保健事業(国)
		県支出金	千円	10,679	10,807	10,601	11,964	11,964	11,964	
		地方債	千円							
		その他	千円	5,339	5,512	5,301	5,982	5,982	5,982	
		一般財源	千円	16,131	15,466	21,274	18,879	18,879	18,879	
	事業費計(A)	千円	47,060	43,862	48,883	50,355	50,355	50,355		
人件費	正規職員延従事人数	人	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50	4.50		
	人件費計(B)	千円	29,858	30,870	30,870	30,870	30,870	30,870		
トータルコスト(A)+(B)		千円	76,918	74,732	79,753	81,225	81,225	81,225		
活動指標	ア	%	45.5	46.4	47.0	47.2	47.4	47.5		
対象指標	イ	人	14,952	14,735	15,680	15,680	15,680	15,680		
成果指標	ウ	人	6,799	6,811	6,498	6,498	6,498	6,498		
上位成果指標	エ	%	72.1	70.3	72.0	73.0	74.0	75.0		


事務事業名	特定健診等事業
-------	---------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 健診や保健指導を実施することにより、健やかで生きいきと暮らせる環境づくりに貢献できる。疾病リスクの早期発見、健康や生活習慣の意識向上により、医療費の削減が期待できる。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達してない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 特定健診・特定保健指導の実施者数（実施率）が共に、国が定める目標値に達していない。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 特定健診・特定保健指導は各医療保険者に実施義務があるため、国民健康保険被保険者が特定健診・特定保健指導を受ける機会を失う。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 事業費は特定健診・特定保健指導委託料であり、受診者数や保健指導利用者数の増加に伴い事業費は増加する。受診者負担金もあることから適切である。

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) ◇健診受診率は年々微増しているが目標値には程遠く、今後受診率を上げていくことがまず当面の課題である。 ◇健診結果に基づき行う保健指導は勿論、疾病の重症化予防などの保健事業にも注力したいところではあるが、現在の従事職員数では不足しており、将来的な実施体制に課題を残す。 ◇平成28年度は、今まで行ってきた健診結果やレセプトデータを分析して抽出した課題から、効果的な保健事業を実施するためのデータヘルス計画に基づき事業を推進する予定である。																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み ◇組織統合により「マンパワー」や「事務経費」などを集約することが考えられる。 ◇組織改革や事業統合などについては、市民や各担当部署等の意見・協議・合意が必要となる。																						

事務事業名	男女共同参画推進事業					所属部	市民環境部	所属課	市民活動支援課
施策名	2 3 市民と行政の協働によるまちづくり					所属担当	市民活動支援担当	課長名	中村 啓子
法令根拠	男女共同参画社会基本法 男女共同参画推進条例					個別計画	笛吹市男女共同参画プラン「輝け男女笛吹プラン」		
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間		
	1	2	1	5	70	1	単年度繰返(開始年度 H17年度～)		
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									
◇男女共同参画推進委員会を設置、男女共同参画プランの推進と、男女共同参画推進条例の推進並びに「男女共同参画都市宣言」を周知啓発。 ◇第2次男女共同参画プランの検証と第3次男女共同参画プランの策定 ◇事業費の内訳 ・推進委員・審議会委員報酬96千円、需用費887千円、その他推進に必要な経費646千円								第3次男女共同参画プランの答申を行いました。(H28.2.22)	

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標											
① 手段(主な活動) ← 実施計画期間 →											
27年度実績			28年度実施計画			29年度実施計画			30年度実施計画		
<ul style="list-style-type: none"> 第5期推進委員27名を委嘱 推進委員会(4回)、審議会(2回)、推進本部(3回)、庁内推進会議(2回)、第2次プラン検証委員会(1回)、第3次プラン策定ワークショップ(1回)、第3次プラン策定検討委員会(7回)開催 プラン策定や条例推進 宣言都市表明を受け各組織での啓発 			<ul style="list-style-type: none"> 推進委員会、審議会、推進本部、庁内推進会議開催 第3次プランや条例の推進 宣言を周知推進 			<ul style="list-style-type: none"> 推進委員会、審議会、推進本部、庁内推進会議開催 第3次プランや条例の推進 宣言を周知推進 第6期推進委員委嘱 			<ul style="list-style-type: none"> 推進委員会、審議会、推進本部、庁内推進会議開催 第3次プランや条例の推進 宣言を周知推進 		
② 対象 (誰、何を対象にしているのか)					指標名(数字は記入しない) 単位						
全市民					⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)						
					ア 推進委員会開催回数(全体会、幹事会、地域学習会等含む) 回						
③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)					⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)						
格差のない社会で、一人ひとりが生き生きと暮らせる社会を実現する。					イ 人口 人						
④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)					⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)						
市民へのプラン普及と啓発により、自主的、自発的に市政や地域づくりに参画し、市民一人ひとりが尊重される社会を実現する。					ウ 審議会等の女性の割合 %						
					⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)						
					エ 地域の役員等の女性役員数 人						
(2) 総事業費・指標等の推移											
投入量	事業費	国庫支出金	千円							補助事業名	
		県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	812	1,093						
		一般財源	千円	864	599	1,887	1,550	1,550	1,550		
	事業費計(A)	千円	1,676	1,692	1,887	1,550	1,550	1,550			
	人件費	正規職員延従事人数	人	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60		
		人件費計(B)	千円	3,981	4,116	4,116	4,116	4,116	4,116		
		トータルコスト(A)+(B)	千円	5,657	5,808	6,003	5,666	5,666	5,666		
		活動指標	ア 回	25	34	25	25	25	25		
対象指標		イ 人	71,337	70,971	70,662	70,662	70,662	70,662			
成果指標	ウ %	23.2	28.6	25.0	25.0	25.0	25.0				
上位成果指標	エ 人	0	1	2	2	2	2				


事務事業名	男女共同参画推進事業
-------	------------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 性差や格差の存在が、地域の中で市民の共同参画を妨げる要因になっており、地域づくりに市民の意見や感覚が活かされていなくて、男女共同参画プランの推進を通じ、市民一人ひとりが尊重され、自主的、自発的に市政や地域づくりに参画できる社会を実現する必要がある。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 市民協働とのコラボレーションで市民まっぴりに参画し視野が広がった。職場や地域学へのアプローチは行ったが、成果を求めるには至っていない。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 市民の基本的な人権確保や市民活動の活性化、市民との協働の取り組み等の視点と合わせて市民レベルでの普及啓発を促進することが有効である。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 男女共同参画都市を宣言したことを踏まえ、第3次プランの策定に取り組み広く市民に推進周知を行う必要があるが、兼任体制で取り組んでおり、削減余地はなく体制整備の検討が必要である。

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) <p>◇平成23年9月に制定された笛吹市男女共同参画推進条例、平成27年3月に男女共同参画都市宣言の表明を契機に男女共同参画社会実現に向けての気運がさらに高まるよう、推進委員会、審議会、推進本部及び庁内推進会議が連携し、推進を図っていく必要がある。</p> <p>◇第2次男女共同参画プランの検証、市民意識調査、ワークショップ等の成果を施策に反映させ、第3次男女共同参画プランの策定を進めている。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み <p>◇推進委員会を中心に、地域に出て推進活動の機会を増やしていく。</p> <p>◇研修会・学習会に女性が参加しやすい環境を整備し、女性自ら参加する意識の醸成を図る。</p> <p>◇女性が地域の役員等に積極的に関わられるよう情報発信等支援する。</p> <p>◇第3次男女共同参画プラン策定を受けて、あらゆる場面で男女共同参画が関係することなど情報提供する。</p>																						

事務事業名	まちづくり推進事業						所属部	市民環境部	所属課	市民活動支援課
施策名	2	3	市民と行政の協働によるまちづくり				所属担当	市民活動支援担当	課長名	中村 啓子
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	期間限定複数年度(H19年度～H30年度)		
	1	2	1	9	60	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									まちづくりワークショップ「つくる春日居meeting」を4回開催。地域の課題を解決するための改善策を出し合い、実際の活動に結びつけるきっかけづくりの場になりました。	
◇地域振興基金運用益を活用し、「地域振興促進助成事業」や「市民ボランティア・NPO法人助成事業」を実施し、地域づくりについて啓発、醸成を図る。また、市民協働ワークショップや市民協働による市民まつりを開催する。市民活動・ボランティアセンターの設置について検討協議。地域振興基金の運用は概ね10年間で成果を引き出す必要がある。 ◇事業費内訳 助成金4714千円、需用費(印刷製本費)818千円、他に事業実施に必要な経費3274千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)



27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 地域振興促進助成 (13件) ・ボランティア・NPO法人助成 (2件) の実施 春日居地区まちづくりワークショップ (4回) の開催 市民まつり開催 市民活動講座 (2回) の開催 市民活動・ボランティアセンターの設置 よっちゃばる通信 (3回) の発行 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興促進助成事業の実施 まちづくりワークショップ開催 市民まつり開催 市民活動講座の開催 市民活動・ボランティアセンターの運営管理 よっちゃばる通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興促進助成事業の実施 まちづくりワークショップ開催 市民まつり開催 市民活動講座の開催 市民活動・ボランティアセンターの運営管理 よっちゃばる通信の発行 	<ul style="list-style-type: none"> 地域振興促進助成事業の最終年度 まちづくりワークショップ開催 市民まつり開催 市民活動講座の開催 市民活動・ボランティアセンターの運営管理 よっちゃばる通信の発行

② 対象 (誰、何を対象にしているのか)

- ・全市民
- ③ 意図 (対象をどのような状態にしたいのか)
- ・市民による自主的、自発的な地域づくりの取り組みが進む。
 - ・NPO法人等を中心とした市民活動のリーダーが育ち、市民活動が活発化する。
- ④ 結果 (意図した結果、さらに何に反映させるか)
- ・新しい公共による安心安全で暮らしやすい地域の実現

指標名(数字は記入しない)	単位
⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
ア 市民協働企画 (市民まつり、ワークショップなど) への参加人数	人
⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
イ 人口	人
⑦ 成果指標 (事務事業の目的の達成度を表す指標)	
ウ 地域振興促進・NPO法人助成事業申請件数	件
⑧ 施策の成果指標 (施策の目的の達成度を表す指標)	
エ 新しい地域フレームによる地域づくり組織数	組織

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	財源内訳							
		国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円	10,901	8,623	11,595	16,760	16,760	16,760
	一般財源	千円		110					
	事業費計 (A)	千円	10,901	8,733	11,595	16,760	16,760	16,760	
人件費	正規職員延従事人数	人	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	1.30	
	人件費計 (B)	千円	8,626	8,918	8,918	8,918	8,918	8,918	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	19,527	17,651	20,513	25,678	25,678	25,678	
	活動指標	ア 人	800	900	3,000	3,000	3,000	3,000	
	対象指標	イ 人	71,337	70,971	70,662	70,662	70,662	70,662	
	成果指標	ウ 件	30	17	15	20	20	20	
	上位成果指標	エ 組織	0	0	0	1	1	1	


事務事業名	まちづくり推進事業
-------	-----------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 すべての市民を対象にすることが重要である。市民意識醸成では市民活動のコアである市民自身が参画する市民活動団体（ボランティア団体、NPO法人、地域コミュニティなど）の顕在化が当面の活動支援の対象である。より多くの自発的な社会貢献活動が結びついてまちの力、地域の力となるよう支援の必要性がある。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 ・事業助成を通じて市民活動が顕在化されつつあるが、地域コミュニティやネットワークとしての結びつきまで至っていない。 ・市民の意識醸成には時間がかかる。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を休廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 事業廃止により直接的には助成を受けられなくなる団体等が困ることになるが、新しい公共や市民協働、将来への気づきの市民意識を醸成する取り組みがなくなると行政への依存が強化し、将来の笛吹市は財政的にも市民生活の上でも暮らしにくいまちになる。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 財源に基金運用益の一部を当てている。「本事業においては、助成金事業だけでなく、市民の意識醸成や地域づくりも視野に取り組むものであること」に留意する。また、事業成果を引き出すためのより専門的能力、実践的リーダー育成能力のある担当者が必要である。

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) <p>◇市の施策である市民と行政との協働事業の実現を目指し、市民活動の活性化、地域づくり支援に取り組み8年目となる。情報発信や情報の共有をするポータルサイトの運用や情報誌の発行、地域振興促進助成事業の報告会、市民との協働の市民まつり開催など市民に向けての発信ができるような環境が整いつつある。また、長く協議・検討を重ねてきた市民活動・ボランティアセンターを開設するに至り、ますます市民との協働が不可欠である。しかしながら、全体として同じ危機意識を感じていない。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み <p>◇市民協働に対する職員の意識改革をするための研修を続けることはもとより、市民の意識醸成も重要と考える。そのため、市民との情報共有やネットワークづくりも必要である。</p>																						

事務事業名	市民活動支援事業						所属部	市民環境部	所属課	市民活動支援課
施策名	2	3	市民と行政の協働によるまちづくり				所属担当	市民活動支援担当	課長名	中村 啓子
法令根拠							個別計画			
予算科目	会計	款	項	目	細目	細々目	事業期間	単年度繰返(開始年度 H19年度～)		
	1	2	1	15	20	1				
○事務事業の概要および主な事業費の内訳									平成28年3月11日、市民公開による市民協働職員研修(119名参加)を開催しました。	
◇市民との協働を進めるにあたり、新しい公共に向けた取組を行う。また、市民と行政の協働事業の実現に向け、市民意識向上の取組とともに行政側のパートナーシップの受け皿としての意識を醸成し、職員が市民協働の認識と市民とのパートナーシップを認識し実現に向け取り組む。 ◇事業費内訳 講師謝礼135千円、研修負担金9千円、旅費58千円、他事務経費等11千円										

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段(主な活動)		← 実施計画期間 →	
27年度実績	28年度実施計画	29年度実施計画	30年度実施計画
<ul style="list-style-type: none"> 職員協働ハンドブックの活用指導 市民公開で行う市民協働に関する職員研修(2回) 市民協働庁内推進会議の設置検討 市民向けの市民協働指針(ハンドブック)の作成検討 	<ul style="list-style-type: none"> 市民との協働に関する職員研修 市民協働庁内推進会議の設置検討 市民向けの市民協働指針(ハンドブック)の作成検討 	<ul style="list-style-type: none"> 市民との協働に関する職員研修 市民協働庁内推進会議の設置検討 市民向けの市民協働指針(ハンドブック)の作成検討 	<ul style="list-style-type: none"> 市民との協働に関する職員研修 市民協働庁内推進会議の設置検討 市民向けの市民協働指針(ハンドブック)の作成検討
② 対象(誰、何を対象にしているのか)		指標名(数字は記入しない) 単位	
市職員 市民(行政区長、議会議員、市民活動団体等)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
③ 意図(対象をどのような状態にしたいのか)		ア 市民協働研修受講者数 人	
市民とのパートナーシップによる協働の意識を高め、市民活動を支援し、共によりよい笛吹市をつくるために行動する職員になる。		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
④ 結果(意図した結果、さらに何に反映させるか)		イ 職員数 人	
市民と行政の協働による新しい公共の創出、協働の市政実現		⑦ 成果指標(事務事業の目的の達成度を表す指標)	
		ウ 職員による自主的な市民支援、市民協働、ボランティアのサークル数 団体	
		⑧ 施策の成果指標(施策の目的の達成度を表す指標)	
		エ 市民との協働事業の実施数 件	

(2) 総事業費・指標等の推移		単位	25年度実績	26年度実績	27年度(実績・見込)	28年度(計画・目標)	29年度(計画・目標)	30年度(計画・目標)	補助事業名
投入量	事業費	財源内訳	千円						
		国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
	一般財源	千円	411	280	279	332	332	332	
	事業費計(A)	千円	411	280	279	332	332	332	
人件費	正規職員従事人数	人	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	0.70	
	人件費計(B)	千円	4,645	4,802	4,802	4,802	4,802	4,802	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	5,056	5,082	5,081	5,134	5,134	5,134	
活動指標	ア	人	0	188	119	250	250	250	
対象指標	イ	人	631	621	622	609	609	609	
成果指標	ウ	団体	2	2	2	2	2	2	
上位成果指標	エ	件	1	1	2	2	2	2	

事務事業名	市民活動支援事業
-------	----------

2 評価の部 (CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

妥当性評価	① 対象・意図の妥当性 * 対象・意図は実態と合っているか？ 上位施策から見てどうか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地あり <input checked="" type="checkbox"/> 対象・意図ともに実態と合っている	⇒【理由】 研修後のアンケートなどから、支所、本庁、各部局によって市民協働への意識に温度差がみられるので、職員全員を対象とした取り組みが妥当である。市民との協働による事業の実施や新しい公共を生み出すための市民への関わりは、地域社会を作るうえで職員の意識共有が重要である。
	② 成果の向上余地 * 事業の成果実績、水準は、あるべき水準と比べて差異はないか？ <input checked="" type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準に達していない <input type="checkbox"/> 成果の実績はあるべき水準とほぼ同じである	⇒【理由】 職員による業務を通じた市民活動支援の取り組みについては、十分な把握ができていないが、自主的な市民支援、市民協働、ボランティアのサークル（グループ）が結成されているので、今後更なる職員の自発的な意識改革に期待する。
有効性評価	③ 廃止、休止、活動量削減の成果への影響 * この事業を廃止したら市民の立場から見ると具体的に何が困るか？ また活動量削減の場合は？ <input type="checkbox"/> 特に影響はない <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(多くの市民が困る・一部の市民が困る)	⇒【理由】 まちづくり事業と一対をなし、笛吹市の将来に対する予防的な事業として位置づけられているため、市民の意識醸成に取り組んでも、市にパートナーシップが育っていなければ、新しい公共や市民協働は実現しない。
	④ 事業費や人件費(延べ従事人数)の削減余地 * 成果を低下させずにコスト削減ができないか？ 活動量との関係で現状のコストは適切か？ <input type="checkbox"/> 事業費や人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	⇒【理由】 各部局等がもっているそれぞれの専門性を活かしたテーマ研究やモデル事業などの企画、提案等を市民との協働で取り組むことが望まれる。また、職員、市民に積極的に公開できるような取り組みが市民との協働には不可欠であるため、削減余地はない。
効率性評価		

3 評価 (CHECK) 結果を踏まえた総括と今後の方向性 (ACTION) * 1次評価者の評価結果を2次評価者が再評価

(1) 全体総括 (他自治体の取組状況等も踏まえた評価結果の振り返り、反省点) <p>◇職員向けの「市民との協働ハンドブック」を職員の意識醸成及び意識統一を図るため、各課で読み合わせなどを実践してきた。市民に対し協働事業を進めるために必要な行動の基本ルールをわかりやすく理解していただくことを目的に、市民のための協働のまちづくりハンドブックの作成が急がれる。まちづくり事業と一体化した施策として行政のパートナーシップ意識はまだ低く全庁的な対応や市民との連帯的な取り組みが必要である。</p>																						
(2) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特段の改革を要しない)	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革、改善を実施する上で解決すべき課題(壁)の解決へ向けての取り組み <p>◇職員が意識して研修会や学習会を重ね、全職員が参加できる庁内体制を整備することが必要である。 ◇職員は「新しい公共」を常に意識しながら、事業を企画・実施するときに市民や市民活動団体等との協働を考えていく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>X</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>X</td> <td>X</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			X	低下		X	X
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			X																		
	低下		X	X																		